



# = 18 = 毘沙門天大祭

昭和43年



露店が軒を連ねる沿道に住む  
渡辺 武司さん(今井1・左)  
高木 稔夫さん(今井1・右)

子どもころは、ミニサーカスやお化け屋敷がありました。ほかに以前は、ズガニ売りやバナナのたたき売りなどもありました。時代とともに祭りが変化してきていて、少し寂しいですね。

でも、毘沙門さんは地元の誇りとなる祭りなので、毎年楽しみにしています。

### 祭りを楽しみにしています

昔は、電車やバスで来る人が多かったため、露店は吉原駅から妙法寺までの間に並び、寺の東側には店がありませんでした。今でも、駅から続く人波が思い出に残っています。あまりにも大勢の人が訪れ、境内への入場制限が行われたこともありました。

この祭りは市を代表する祭りの一つで、「毘沙門さん」と呼ばれ親しまれ、毎年たくさんの人でにぎわいます。ことは二月十五日火(十七日木)に行われます。

だるま市として名高い毘沙門天大祭

旧暦一月七日(九日)に行われ、群馬の高崎や東京の深大寺とともに日本三大だるま市として知られています。中でも、七福神の毘沙門天のように立派なひげをつけただるまは有名です。

この祭りは市を代表する祭りの一つで、「毘沙門さん」と呼ばれ親しまれ、毎年たくさんの人でにぎわいます。ことは二月十五日火(十七日木)に行われます。

昔は、電車やバスで来る人が多かったため、露店は吉原駅から妙法寺までの間に並び、寺の東側には店がありませんでした。今でも、駅から続く人波が思い出に残っています。あまりにも大勢の人が訪れ、境内への入場制限が行われたこともありました。

子どもころは、ミニサーカスやお化け屋敷がありました。ほかに以前は、ズガニ売りやバナナのたたき売りなどもありました。時代とともに祭りが変化してきていて、少し寂しいですね。

でも、毘沙門さんは地元の誇りとなる祭りなので、毎年楽しみにしています。

祭りを楽しみにしています

昔は、電車やバスで来る人が多かったため、露店は吉原駅から妙法寺までの間に並び、寺の東側には店がありませんでした。今でも、駅から続く人波が思い出に残っています。あまりにも大勢の人が訪れ、境内への入場制限が行われたこともありました。

子どもころは、ミニサーカスやお化け屋敷がありました。ほかに以前は、ズガニ売りやバナナのたたき売りなどもありました。時代とともに祭りが変化してきていて、少し寂しいですね。

でも、毘沙門さんは地元の誇りとなる祭りなので、毎年楽しみにしています。

祭りを楽しみにしています

### こちら編集室

ここ数年風邪を引いたことがなかったのですが、30代に突入した途端の昨年12月から、たちの悪い風邪を引いています。

環境に左右されやすい体質のせいか、暖くなれば治り、寒くなれば風邪が復活、という生活を繰り返しています。

そして、正月にはすっかり寝込んでしまいました。これからインフルエンザがはやります。皆さん、手洗い・うがいはもちろんのこと、乾燥にも注意し、水分を小まめにとりましょう。面倒くさいなんて言わずに...

人口	243,323人 (前月比 - 146)
男	120,875人 (- 1)
女	122,448人 (- 145)
世帯	86,282世帯 (- 162) 1月1日現在
編集・発行	富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100	
☎ 0545-51-0123(代) ㊟ 0545-51-1456	



平成十七年二月五日号(毎月五日・二十日発行)

ホームページ <http://fujishi.jp/>

広報ふじは環境に優しい古紙100%の再生紙と大豆油インキを使用しています